

論文内容の要旨

報告番号		氏名	小川 浩平
<p>Identification of thymus and activation-regulated chemokine (TARC/CCL17) as a potential marker for early indication of disease and prediction of disease activity in drug-induced hypersensitivity syndrome (DIHS)/ drug rash with eosinophilia and systemic symptoms (DRESS).</p> <p>(和訳)</p> <p>血清 TARC/CCL17 値は薬剤性過敏症症候群(DIHS)の早期診断および病勢の指標となりうる。</p>			

背景)

薬剤性過敏症症候群(DIHS)は、発熱や臓器障害などの全身症状を伴う重症薬疹の一つである。遅発性に生じ、ヒトヘルペスウイルス 6(HHV-6)の再活性化を伴って経過が遷延することが特徴である。この度我々は、DIHS においてしばしば紅皮症、好酸球増多症、制御性 T 細胞増多がみられることに着目し、その病態形成に TARC/CCL17 が関わっている可能性を推測し、その検証を試みた。

方法)

DIHS 8 症例、スティーブンス・ジョンソン症候群/中毒性表皮壊死症(SJS/TEN) 7 症例、紅斑丘疹型薬疹(MPE) 14 症例の 3 群について、急性期の患者血清中の TARC 値を ELISA 法にて測定し、3 群間で比較検討した。また DIHS 患者における血清 TARC 値の推移と、臨床症状や検査データとの相関を経時的に調べた。さらに、DIHS および MPE の患者の皮疹部から生検を行い、皮膚における TARC の発現を免疫組織化学染色にて検討した。

結果)

急性期の血清 TARC 値は DIHS 患者群において著明に上昇しており、SJS/TEN 患者群および MPE 患者群の血清 TARC 値と比較して有意に高値であった。さらに、DIHS 患者群の血清 TARC 値の推移は、皮疹の活動性、血清可溶性 IL-2 受容体、血清 IL-5 値、末梢血中の好酸球数の推移とよく相関した。

免疫組織化学染色の結果、DIHS 患者の皮疹部では真皮に浸潤している CD11c 陽性樹状細胞に TARC の著明な発現を認めた。

結論)

DIHS の診断には、血中 HHV-6 の検出が決め手になることが多いが、通常ウイルスが検出されるのは発症後 2 週間以上経過してからであり、早期診断に苦慮することがしばしばある。今回の研究結果から、血清 TARC 値が DIHS とその他の薬疹を早期に鑑別する有力なマーカーとなることが判明した。さらに、血清 TARC 値は疾患活動性の指標としても役立つことが示された。また、DIHS 患者の皮疹部では TARC が主に CD11c 陽性の真皮樹状細胞から産生されることも明らかとなった。